

令和元年7月31日

## 自由民主・無所属の会 研修会報告書

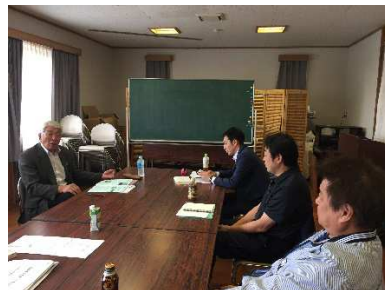
- 1、日時 令和元年7月10日(水)～11日(木)
- 2、場所 三陸町越喜来 遊・YOU・亭夏虫
- 3、目的 今後の施設活性化のあり方や地域課題を議論し、共通認識を深めるとともに会派活動に結び付けること

## 4、タイムスケジュール

	1 日目
9:30	現地集合(各自)
9:40	開校 船野章副代表開校挨拶
1 コマ 9:50~10:50	船野 章 副代表 テーマ「ILC と道路政策について」
2 コマ 11:00~11:50	平山 仁 幹事長 テーマ「請願制度について」
12:00~13:00	昼食
3 コマ 13:00~13:50	船砥英久 副幹事長 テーマ「環境衛生組合視察報告等」
4 コマ 14:00~14:50	金子正勝 会計監査 テーマ「働き方改革について」
5 コマ 15:10~16:20	講師 三陸ふるさと振興センター総務部長 テーマ「現状と課題について」
6 コマ 16:30~17:30	森 亨 事務局長 テーマ「100 年社会と共存について」
18:00~	懇親会テーマ(報道関係者とテーブル協議:求められる議員像について)
2 日目	8:20 閉校 →10:00 総務常任委員会等へ移動

## 5、研修内容


会派所属議員一人あたり 50 分の持ち時間とし、その範囲内で日頃思っている課題や疑問点をプレゼンし、意見交換や討議を行った。




### ①午前 9 時 50 分～10 時 50 分 船野章副代表

<p>【プレゼン テーマ】</p>	<p>国際リニアコライダー誘致に向けた現在の取組みや釜石と花巻を結ぶ横断自動車道整備に伴うコンテナ貨物の増加等の背景とその考察について</p>
<p>【主な意見】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際リニアコライダー誘致については、年内に日本学術会議によるマスタープランへ搭載されることがポイントであると報道されており、それに向けて情報収集と取組みを強化する必要があるのではないか。</li> <li>・国際リニアコライダー誘致が実現した場合、大船渡港が資材荷揚げの有力地とされているが、具体的に求められている役割、荷揚げ資材を検討する必要があるのではないか。また、その当港湾の役割を決定するのは、国か県か、東北リニアコライダー推進協議会なのか確認する必要があり、決定先に要望するのが効果的なのではないか。</li> <li>・部材として数量の多いクライオモジュールは、荷揚げ場所、保管場所、検査場所、組み立て場所が必要と聞くが、当市で対応するにはどうしたらいいのか。その施設は誰が建設し管理するのか。自治体負担については、どのように検討されているものか。</li> <li>・当市のハーバークレーンで支障なく荷揚げ作業が可能なのか知りたい。釜石港湾に視察に伺った際に、船によってはジブクレーンでは届かない場合があると説明された。</li> <li>・例えば、各種施設や道路整備が必要な場合の地元負担は想定されているのか確認する必要がある。時期を捉えて負担がある場合は財政軽減策を要望する必要があるのではないか。</li> <li>・当市の 45ft コンテナ輸送実験では、数か所の通行困難箇所が記されていたが、その対応策について確認する必要があるのではないか。</li> <li>・資材が膨大な場合には、広域で対応する必要があると考えるが、気仙でそのすみ分けがどの様に議論されているのか確認する必要がある。</li> </ul>

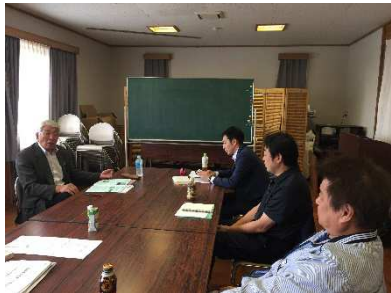
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路の整備効果については、釜石港におけるコンテナ貨物数の伸びや、三陸道の駅の来場者数を考えても絶大なる効果があるのではないかと。</li> <li>・震災によって懸案事項であった三陸縦貫道や横断道が復興道路、復興支援道路として早期に整備が進んだ。久慈につながる道路についても期成同盟会が結成されたという報道で機運の高まりがみられる。一方、当市と内陸部を結ぶ道路については、107号線の部分改良であり、抜本的なものではない。将来の世代がどのような判断を下すか分からないが、このままでいいものか悩ましい。</li> <li>・平成26年に大船渡遠野連絡道路にかかる検討会が立ち上がり、荷主は内陸部への高規格道路を整備しても使用しないとのアンケート結果が多かったと思う。そのことも要因の一つにあるのではなかったか。</li> <li>・一方で、一般ユーザーの声が反映されているものか。道路整備がされれば、時間の短縮や安全面、交流の拡大など、様々な恩恵もあるのではないかと。</li> <li>・道路が整備されると、内陸部との競争が激化し、価格面で不利になるのではないかと。デメリットも整理する必要があるのではないかと。</li> <li>・気仙の2市一町でルート選定が出来ないとそもそも要望も難しいのではないかと。</li> </ul>
【結論】	会派にて、内容を精査し令和2年度予算要望へ掲載する

<p>②11時00分～11時50分 平山仁 幹事長</p>	
【プレゼンテーマ】	<p>当市議会における請願審査を通じて、請願とはどのような制度か、基本条例における請願の位置づけや市民のための制度になっているのかを考察</p>
【主な意見】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・憲法では何人も…と書かれているが請願制度を知らない市民も多いのではないかと。</li> <li>・請願を提出しているのは、全国的な団体や市外の団体が多く、本来の趣旨とはかけ離れているように思える。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議会において、過去に採択を行ったものが、当局にその履行を求めたり、議会が検証等を行ったことはなく、一時的なものになっている。</li> <li>・基本条例では、請願は市民からの政策提言と位置付けるとあるが、一般的な市民からの請願はないのではないか。また、政策提言と位置付け、議会が履行するためには、どのような仕組みで行うのがベストか。</li> <li>・国の安全保障に関する請願が出され、議会が当局に履行を求めたとしても、地方自治法では、法定受託事務や自治事務において国の安全保障を除く部分の自治範囲であるので、履行を求められないのではないか。</li> <li>・請願は政治的な意味合いが多く、結果として一般市民には関係のないことで議論しているように思われるのではないか。</li> <li>・請願審査においては、現在のところイエスカノー二択になっている。多様な価値観がある社会においては、一部採択や主旨採択があっても良いのではないか。</li> <li>・請願を採択すると意見書を出さなければならないとされているのではないか。意見書を送付するまでもないが、請願の主旨に賛同し採択の上、常任委員会で調査を試みる等のパターンがあってもいいのではないか。</li> </ul>
【結論】	<p>会派にて、今後も制度の在り方を研究するとともに請願の手引き書の提案も検討する。</p>

<p>③13時00分～13時50分 船砥英久 副幹事長</p> 	
【プレゼンテーマ】	<p>環境衛生組合による山形県の視察を通じて、釜石市にある熔融炉や当市の取組みを比較</p>
【主な意見】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山形県の施設は、搬入から最終的な処分まで同一敷地内で行っているようだ。効率が良いのではないか。</li> <li>・当市では、ペットボトルの資源ごみの回収をモデル地区の指定して行っているが、取組みを強化する必要があるか検討する必要がある。現在の費用負担についても確認する必要がある。</li> <li>・当市では、ペットボトル等をセメント工場が燃料として受け入れているが、一般的にはペットボトルのリサイクル率が高いとは限らな</li> </ul>

	<p>いことから、リサイクルゴミの全体像を把握する必要があるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当地域の最終処分場を見学し、認識を深める必要があるのではないか。</li> <li>・ 処分費はゴミの量による負担金だと思うが、当市の負担金の推移はどのようになっているのか確認する必要がある。</li> <li>・ 環境衛生は、今後益々重要な課題となっていくはず。中でも、ゴミの減量化が負担金の削減につながることから、啓蒙活動を強化する必要があるのではないか。現在は、市広報等が主であるが、ほかにどんな方法があるか。</li> <li>・ 一番環境に良いのは、高温で燃やしてしまうことと聞いたことがある。リサイクルが進むほどにゴミの量が増えるというが、ゴミ処分の全体を掴む必要はないか。</li> <li>・ 川上から川下までのゴミ処分については、改めて勉強する必要がある。処分費の問題やゴミ収集のタイミングや分別等、他市と比較することが大事ではないか。</li> </ul>
【結論】	<p>ゴミの処分の流れや費用について、他市と比較し、予算要望等に役立てる</p>

<p>④14時00分～14時50分 金子正勝 会計管理</p> 	
【プレゼンテーマ】	<p>政府が求めている働き方改革の目的等を確認した上で、企業の経営者が取り組まなければならない事や経営者から見た働き方改革について</p>
【主な意見】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 働く時間を減らしながら給与水準を維持するとすれば、生産性の効率化を向上させる必要性が生ずるが、業界ごとの取組みはどのようになっているのか知りたい。</li> <li>・ 年間720時間という縛りは、我が国だけが行っているものか、先進国や発展途上国はどの様になっているのか研究する必要があるのではないか。</li> <li>・ 確かに OECD 加盟国の中で、生産性は下位の部類であるが、未だ世</li> </ul>

	<p>界の経済大国第 3 位である。この矛盾はどのような理由によるものか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革を行うには、経営者とともに就労者の意識改革が必要になってくると思われるが、就労環境改善への取組みに対する支援策も検討する必要があるのではないか。</li> <li>・復興需要が収束すると、市内業者は内陸部への事業展開を行う必要が出てくる。その場合は、競争条件が不利であり経営を圧迫される企業が増加すると思われる。</li> <li>・不当な長時間労働やサービス残業等は是正されなければならないが、業態によって業務の生産性の評価が難しいことから、我々も研究する必要があるのではないか。</li> <li>・働き方改革を進めるにあたって、繁忙期の対策をどのように進めるのか。逆に、短時間労働者が増加するのではないか。</li> <li>・例えば、看護師などの医療従者の献身的な努力によって日本の医療は支えられていると言われているが、実態は非常に厳しく、超過勤務の全てが給与に反映されているとは言い難い現状があると思われる。</li> <li>・欧米などの国と日本では雇用に対する契約が異なり、逆に正社員の雇用に躊躇することが多いのではないか。</li> </ul>
【結論】	<p>当市では、生産性向上に特化した支援制度はないが、6 次産業化に対する補助金等が存在する。このテーマは息の長い取り組みが必要なことから、生産性向上につながる設備投資や意識改革につながる支援策を求めていく。</p>

<p>⑤ 講義 15 時 00 分～16 時 20 分 三陸ふるさと振興株式会社 総務部長</p>	
【ディスカッションテーマ】	<p>「三陸ふるさと振興の現状と課題について」 総務部長より、三陸ふるさと振興センターの経営状況や宿泊客数等の説明を決算資料等を用いて説明を受けたのち、意見交換を行った。</p>
【主な意見】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基金を取り崩しているのが実態であり、抜本的な対策が必要なのは理解する。</li> <li>・三陸縦貫がつながることで道の駅の利用客も増加している一方で、貝毒による鮮魚部門の仕入れ単価の増加による減収が見受けられたが対策が難しい。</li> <li>・宿泊施設と温泉部門が経営を圧迫しているものの、仮に解体するにしても莫大な費用を要する。施設を最大限活用出来るように支援策を検討する必要があるのではないか。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市からの委託費約 1300 万円を加えての赤字であるが、例えば、博物館やリアスホール、椿館などの施設と比較し、検討を深める必要がある。</li> <li>・遊 YOU 亭や夏虫のお湯っこを目的に来るには、周辺環境や目的、ストーリーを再構築する必要があるのではないか。</li> <li>・当市のホスピタリティを向上させるためにも、広告方法や客観的な視点が必要であり、プロの代理店等を絡める必要があると思う。</li> <li>・遊 YOU 亭と夏虫のお湯っこには食堂が二か所存在し、営業時間もまちまちである。精査する必要がある、加えて連続した施設であることから、統一した体制が望ましいのではないか。</li> <li>・コテージの活用など、新しい取り組みを行ってみるべきである。一方で、市場調査やニーズ把握出来る体制が必要と思われることから、専門性の高い民間と協議を深めるべき。</li> <li>・周辺には使用されていない畜産施設等が存在するが、付近の価値を高めるためにも解体すべきではないか。</li> <li>・市内には温泉施設が複数存在するが、連携がどの程度行われているのか見えない。共通チケットや交通チケットと絡めて考える必要があるのではないか。</li> <li>・平成元年から経営としては厳しい状況が続いている。不採算部門は切り離すべきではないか。また、市の株式減資を行い、独立させるべきではないか。</li> <li>・三陸道の駅のレジ通過は年間 15 万人とも聞く。この方々を活用した PR 方法を深めていく必要があるのではないか。実際に基石を訪れる観光客を超えていることから、我々の意識も変化する必要があるのではないか。</li> <li>・当市を訪れる観光客は年々減少していることに加えて、観光客の定義が明確ではない。ビジネス目的も含まれていることから、真水の観光客数を把握する必要があるのではないか。</li> </ul>
<p>【結論】</p>	<p>市からの委託費を加えても赤字であることから、不採算部門にフォーカスした対策を打つべきと考える。これまでの発想を脱し、広告代理店等のプロの意見を取り入れるべきではないか。会派として情報を整理し令和 2 年予算要望へ提案。</p>



⑥16時30分～15時30分 森亨 事務局長



【プレゼン  
テーマ】

人生 100 年社会に向けた地域や行政の役割と、高齢者が健康で暮らしやすい環境整備や支える若者との協働について

【主な意見】

- ・岩手県の平均寿命は男性で全国 45 位、女性で 42 位であるが、どのような理由によるものか整理する必要がある。当市は何歳なのか。理由がわかると対策も立てやすいのでは。
- ・健康で長生きしていただくには、運動と検診、食事バランスが大切。当市の取組みを確認し、必要があれば拡充を検討すべきではないか。
- ・年金や健康保険が保険制度であることを理解している方が少ないのではないか。年金は設立当初は掛け金 100 円程度だったはず。親の面倒は子どもが見る、年金は孫へのお小遣いという時代から、年金から光熱費等の生活費を支払う時代になってしまった。
- ・現役世代の賦課方式というのを知らない市民も多いのではないか。分母と分子の話しであるので、分母が少なくなれば、仕送りを減らすか、多く集めるしかない。
- ・国会がだらしない。社会保障を政争の具に使う。結果、国民が損をしている。
- ・これまで当市を支えていただいた高齢者のためにやさしい制度に出来ないか。祝い金も廃止したが、高齢者のニーズ把握に努める必要があるのではないか。
- ・地域との協働や共存がテーマであるが、何を、誰が、どのくらい行うのか、手伝うのが明確ではないことから、議論が深まらないのではないか。
- ・行政の立ち位置はどうなっていくのか。行政の役割の一部を住民に行っていただくとする、職員体制等はどうなるのか。
- ・各地域においてある程度の自立した運営体とした場合、地域間のバランスも必要となることから、市全体の公共施設の再配置や新たな取り組みが進めにくくなるのではないか。
- ・市が優先すべきは、公共交通の再構築や学校施設の適正化にかかる諸問題、復興需要収束後の市内経済への対策なのではないか。

【結論】

人生 100 年時代を目指した市民協働のまちづくりは重要なテーマであることから、引き続き議論を深める。会派として情報を整理し令和 2 年度予算要望へ提案する他、一般質問等で議論を重ねる。

## 6、研修のまとめと反省点

- ・初めての試みであったが、互いに議論や意見交換を行うのは有益だった。
- ・次回は、公開しても良いのではないか。
- ・次回は、市民と意見交換を行っても良いのではないか。
- ・次回、講師として物流関係者を呼び、当市を取り巻く実態について議論したい。
- ・次回は、財政に特化し議論したい。
- ・準備時間が短く、次回は研修精度を向上したい。
- ・全体テーマや、目的、結果を明確にする必要があるのではないか。
- ・勉強の機会は重要。定期的な開催はできないか。
- ・一人当たりの時間を増やす必要があるのではないか。
- ・他会派に声をかけて実施しても良いのではないか。
- ・合宿を会派の特徴にしても良いのではないか。
- ・市内の施設利用を行い、課題点を探る必要があるのではないか。
- ・研修の内容を会派視察や議会活動に活かす必要があるのではないか。

以上のような意見が出され、次回以降の取組みに活かすこととした。